

医学研究に関する情報公開および研究協力へのお願い

福井県済生会病院薬剤部および産婦人科では、臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学研究を実施しています。こうした研究では、対象となる方に関して既に存在する試料や情報、あるいは今後の情報や記録などを調査しますが、対象となる方にとって新たな負担や制限が加わることは一切ありません。このような研究では、国が定めた倫理指針に基づき、対象となる方お一人ずつから直接同意を得るかわりに、研究の目的を含む研究の実施についての情報を公開することが必要とされています。ご自身の情報や試料を研究に使用してほしくないという場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」へご照会ください。研究への参加を希望されない場合、研究結果の公表前であれば、研究期間内にご連絡いただいた時点より対象から除外いたします。なお研究不参加を申し出られた場合でも、なんら不利益を受けることはありませんのでご安心ください。

【研究課題名】子宮収縮剤および鉄剤使用における産褥貧血および産後うつへの影響に関する検討

【研究期間】福井県済生会病院 臨床研究審査委員会承認日～2021年3月29日（承認日から1か月後で設定予定）

【研究の目的】

周産期の妊産婦死亡原因の第一位は自殺であり、うつ病等の「気分障害」が自殺の大きな要因の一つであることがわかっています。近年、産後にうつを発症するリスクが、貧血がない女性と比べ貧血がある女性は約6割も増えるという調査結果が報告されました。最近では、コロナ禍で産後うつ病のリスクが深刻化しています。

一方、分娩後の多量の出血は産褥貧血および産褥経過不良の原因となります。分娩後の子宮収縮剤投与は、弛緩出血を防ぎ出血量減少が期待できます。

このようなことから、本研究は、2015年1月から2020年9月の間に、当院産科で出産されたお母さんの分娩後の子宮収縮剤および鉄剤の使用状況と、エジンバラ産後うつ病自己評価表を用い、産褥貧血と産後うつへの影響を調べることを目的で計画されました。

【研究の内容】

1. 研究の対象となる方

2015年1月から2020年9月まで、当院産科で出産されたお母さん

2. 研究に用いる試料・情報

診療の過程で取得された血液、生年月日、診断名、年齢、身体所見、分娩時出血量、検査結果（血液検査など）、エジンバラ産後うつ病自己評価表、子宮収縮剤および鉄剤の使用歴

3. 研究の方法

2015年1月から2020年12月までに、当院産科で出産されたお母さんに対して、分娩時出血量、血液検査のデータ（血色素など産褥貧血に関連するもの）、エジンバラ産後うつ病自己評価表やカルテの診察記事を使用します。その際、患者さんのお名前など個人情報を削除します。この後、必要なデータをまとめ、分娩後の子宮収縮剤および鉄剤の使用状況と、産褥貧血と産後うつへの影響についての研究を行います。集めたデータは学会や論文などに発表される事がありますが、個人情報が公表されることはありません。

【当院における研究責任者】

福井県済生会病院 薬剤部 長谷川 敦子

【本研究に関する問い合わせ窓口】

○問い合わせ窓口

〒918-8503

福井県福井市和田中町舟橋 7-1 福井県済生会病院 薬剤部 長谷川敦子

電話：0776-23-1111（代表）